

## 越山若水

2021.7.22

フランスの人類学者レヴィ・ス

トローブは、ありあわせの材料を

使ったものを作ることをブリコラ

ーージュと呼んだ。新国立競技場を

現代のブリコラージュの産物であ

ると、デザインを主に手がけた建築家隈研吾さんは表現する▼自著「ひとの住処」(新潮新書)で、木にこだわったスタジアムへの思いを披露する。少子高齢化の日本、さらに21世紀を象徴する競技場とは、庶民的でしかも安心できる材木を使ったものこそふさわしいと考えたそうだ▼外周を覆い、その下に快適な日陰を作る庇には在来木造で用いられる小さな集合材を採用。大屋根を支える材木に鉄骨を組み合わせ、森の木漏れ日のような効果を実現した。身近にある材料をだまじだましつつも木造建築の特徴でブリコラージュに通じるといふ▼前回東京五輪の象徴といえは国立代々木競技場。高度経済成長だった時代の精神を設計者丹下健三はコンクリートと鉄を使い、つり屋根による高さで表現した。だが隈さんは低さを追求する。明治神宮外苑との調和を重んじた。新国立競技場であす開会式が行われる▼過去最大規模の参加選手にとって夢舞台である。コロナ禍で五輪の開催理念は揺らぎ、開会式は五輪史上初の無観客となるが、変わらないものがある。1年の延期に耐えた選手たちの思いであらう。胸に抱く夢に向け、第一歩を刻む日としてほしい。